

巻 頭 言

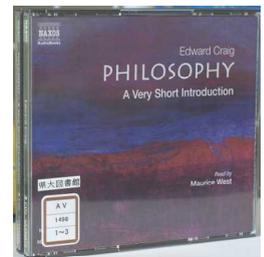
附属図書館長 市村 孝雄

5月の連休、2枚組みの化粧ケースに入ったエドワード・クレイグの電子ブック”Phylosophy”を読みました。いや正しくは、聞きました。一瞬、記憶は昔日の教養部の一教室に戻り、40年のタイムスリップを味わいました。ショックでした。「そうか、今の時代、海外に行かなくても世界の大学の聞きたい講義が聞けるのだ、一年分でも二年分でも、欲しいだけ、好きな時に。」

現実に目を移すと、ここ私たちの県立大学にも貴重な視聴覚資料の蓄積があることに気づきます。マイクロフィルム、カセットテープ、ビデオテープ、CD、LD、DVD、CD-ROM、DVD-ROM、レコード、シネフィルム等々計1583タイトルにのぼります。電子版百科全書など優れたものも手が届くような価格になって、昨年からの購入数は急増傾向です。

にもかかわらず、その多くは教員研究室分置扱いとなっていて、学生の皆さんにその場で自由に視聴してもらうには制約があるのが現実です。看護学部棟図書室ではAV視聴覚コーナーを利用できますが、本館では未だその設備がありません。せめて、一隅に視聴コーナーを設けて、借り出した所蔵資料をその場で視聴できるようにしたいと知恵を巡らしているとこです。

学生の皆さんだったら膨大な情報を凝集したこれらのメディアがいつでも何十人でも利用できる、そんな広いロビーのある図書館を思い描くことでしょうが、いかんせん本館は狭隘です。利用者の皆さんから、よいお知恵をお借りできればうれしいのですが、いかがでしょうか。



日曜日の特別利用を開始しました！！

5月20日より、皆さんからの要望が多かった日曜日の特別利用を開始しました。利用の手順は土曜日と同様で、金曜日にカードキーを借りて利用できます。

看護学部棟図書室を利用する場合には、利用当日に学部事務室でカードキーを借りてください。返却も事務室をお願いします。

いよいよ「セルフ貸出機」が導入されます！！

7月より図書館にセルフ貸出機が設置されますので特別利用時に図書が借りられるようになります。返却処理はできません。

雑誌は貸出できません。ご注意ください。

また、現在借りている冊数を確認して、手続きを行いましょう。制限冊数以上は貸出できません。(徳田) [貸出画面](#)

## (寄稿) 学生時代と図書館と読書

社会福祉学部 教授 志村 哲郎

私の学生時代といっても、もうすでに40年近く前のことである。60に手の届くところまできた今の私は、視力も落ち、夜遅くまで読書をするのが苦痛となっている。しかし、その分朝早く起きようになり、読書はもっぱら早朝となっている。団塊の世代の真っ只中で育った私は、大学時代はいわゆる「全共闘世代」でもある。私の進んだ大学でも、学園闘争の嵐の中、キャンパスの封鎖が続く、入学してからほとんど授業が行われなかった。それでも、年度末には試験だけは行われた。封鎖が続いているため、試験はすべてレポートで、それも自宅に郵送されてきた。一度も顔を見たことのない教授のレポートを仕上げ、これをまた郵送で大学に提出した。落ち着いて授業が受けられるようになったのは、3年の専門課程に進んでからであったと思う。ゼミではアダム・スミスやホッブス、ロックといった近代思想の祖といわれる思想家たちの原典を読まされた。一週間かけて、辞書と首っただけ訳していくと、ほとんどすべて訳し直させられた。特にアダム・スミスの原文は難解で、一つの文に関係代名詞が3つも使われていたり、先行詞が見つからず、冷や汗のかき通しであった。同じゼミに当時互いに、反目しあうセクトの学生がおり、ことあるごとに、対立していた。それでもさすがにゼミのときは、それ以上のことは起きなかったが、デモのときは、互いに石つぶてを投げあっていた。4年間をふりかえってあまり授業をまともに聞いた覚えがない。

だがそのぶん、図書館はよく利用したように思う。せっかく大学にいても講義がないので、朝から晩まで、図書館で読書に没頭した。学生時代に最も真剣に読んだのは、マルクスとメルロ、ポンティ、それと広松渉であった。人間不在の古いマルクス主義ではなく、生きた人間を社会とつなぐ新しいマルクス主義とは、どのようなものか模索していた。当時、まだ翻訳されていなかったマルクスの新版『ドイツイデオロギー』のコピーを借りて、むさぼるように読み、わからないところは、東京の大学にいた広松氏のところまで質問をかかえて、大阪から夜行列車に乗ったこともあった。しかし、時代は人間主義を突き抜けて、構造



ドイツ・イデオロギー  
河出書房新社 1974  
第1分冊：原文 text  
第2分冊：邦文 text

主義に、マルクス主義も、疎外論から物象化論へとその重点を移していた。当時の私の関心も、主体と構造の関係を問うことであった。その後大学院へ進んだが、専門の社会学と自己の実践的関心とを折り合いをつけるのに苦労した。大学院での担当教授はいつも苦笑しながら、私の実践的な過剰な関心を、専門領域に結びつくよう、緻密に指導して頂いた。

その後、私の関心も、社会体制といった天下国家の関心から、微細な日常生活に移っていった。とりわけ、自分自身の問題でもある障害者問題を考えるようになった。社会の矛盾を問題にしながら、自分自身の問題は遠ざけてきた、メルロ・ポンティや若きマルクスを通過して、ようやく自己の身体論へとたどりついた。

話はわかるが、図書館のことで、10年以上前のことであるが、カリフォルニア大学のバークレイ校とロサンジェルス校、いわゆる UCLA に行ったことがある。大学のバリア・フリーの調査であった。バークレイは全米障害者運動の発祥の地でもあり、大学には障害学生専門の部局があり、車椅子利用の学生だけでも500人ほどおり、障害課の地下には車椅子の修繕課があった。その専門員の方が図書館のアクセスを紹介してくれた。車椅子でも十分利用できるようにさまざまな工夫が見られたが、一番納得したのは、エレベーターのボタンであった。通常、エレベーターのボタンは、手で押せる位置にあるが、図書館のボタンは、足の先で押せるように床の近くにもあった。車椅子の学生が、そのまま車椅子をボタンにぶつくと、ドアが開くようになっていた。それだけでなく、本を両手で抱えている学生も、足でドアを開けられるようになっていた。そのとき、私は、現在、一般化しつつある、ユニバーサル・デザインの本質を知ったように思う。つまり、特定の障害者に対するバリア・フリーの課題を解消することが、誰にも使いやすいユニバーサル・デザインとなっているということが、そこには見られた。県立大学図書館も、図書館の多機能化の波の中で、よりいっそう誰にもアクセス可能な、ユニバーサルな図書館をめざしてほしい、と心から願う。

## (寄稿) もっとPRを!!

国際文化学部4年 我喜屋 翔子

入学当初、広くて資料も豊富で設備の整った大学図書館をイメージしていた私は、附属図書館を見て、ひどく落胆したのを覚えている。

しかし、課題やレポートを書くには図書館の存在は必要不可欠であり、足を運ぶ回数が段々増えていくにつれて、小さくて古い図書館に愛着を持つようになった。あれから3年経ち、今ではすっかり図書館の常連になった。3年間図書館と共に過ごしていると、次第に新たな現状と問題点も見えてくる。そこで利用者の視点から図書館サービスの改善策を提案してみたい。

図書館の抱える問題に、建物の老朽化、バリアフリーなど設備面の問題、人員不足で、近年求められている高度な情報サービスや利用者教育などに行き届いたサービス提供が難しくなっている点、不十分な資料などが挙げられ、これらが図書館利用者減少の一因となっているように思われる。

また、図書館では市内の大学図書館と公立図書館3館の協定による資料相互利用や日曜日の特別利用開館など新たなサービスが開始され、電子ジャーナル等の提供もされているが、学生にはこれらのサービスがよく知られていないのである。

学生にこれらのサービスを活用してもらい、もっと図書館が利用される方法はないだろうか。

それには、図書館からの積極的なPRが必要と考え、附属図書館のホームページに着目した。現在のホームページは、図書館利用案内、相互利用案内、OPACによる蔵書検索しかない。そこで、内容を充実させ、レイアウトも分かりやすく、必要な情報が目立つように工夫し、ネット上でサービスをアピールし、提供してはどうだろうか。具体例として、新着ニュース、ネット上でのレファレンス、協定館3館の横断検索やポータル機能、電子版の図書館だよりなどが考えられる。

今は限られた環境の中でしかサービスが出来ない状況だが、その環境の中で出来得る最大限のサービスを行うことは可能である。ここで提案したホームページのリニューアルは、学生に幅広く情報を行きわたらせ、きっと利用者を増やすことになるはずだ。私は最初、図書館の外見に悩んでいた。でも実際に利用してみると、館内の至る所にサービス改善の努力が見られるし、雰囲気も良い。ぜひ多くの人々が図書館に足を運んで、私のように学生生活の一部にして欲しい。

## 本学教員出版物の紹介

-平成12年(2000年)以降出版のもの-

附属図書館に寄贈いただきました。著書ご刊行の折には是非図書館へ・・・!(辻村)

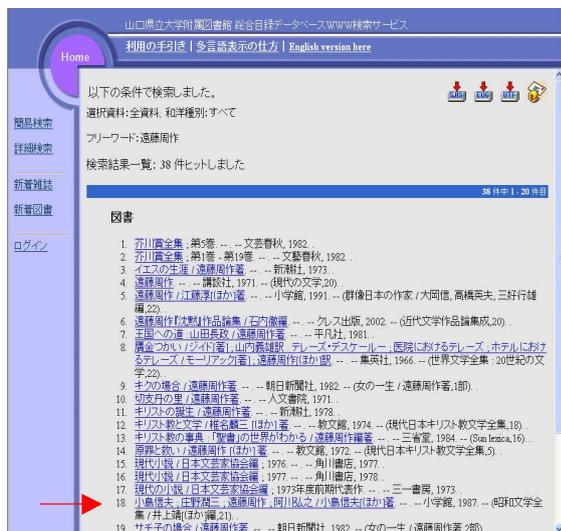
- 白衣からこぼれ落ちた木の葉髪 江里健輔著
- 女性学の再創造 三宅義子著
- 日本社会とジェンダー 三宅義子編
- 中国改革・開放の20年と経済理論 折戸洪太著
- 中国における社会主義経済理論の展開 折戸洪太著
- 西ネパールの憑依カルト 安野早己著
- 山東方言の調査と研究 馬 鳳如著
- サランヘヨ!ハングル 金恵媛,李文相,朴賢珠著
- 西表島の農耕文化 安溪遊地編著
- やまぐちは日本-[正][続] 安溪遊地著
- ゼロから話せるポーランド語渡辺克義著
- 地域から世界へ 渡辺克義編著・訳
- ポーランドを知るための60章 渡辺克義編著  
(他7点)
- 日本的経営は海を越えられたか!? J.A.T.D.にしゃんた著
- 留学生が愛した国・日本 J.A.T.D.にしゃんた著
- ファッションの歴史 佐々井啓編著,水谷由美子ほか著
- 毛利臣男の劇的空間 水谷由美子著
- 初期江戸読本怪談集 大高洋司,近藤瑞木編,木越俊介校訂
- はじめての社会保障 棕野美智子,田中耕太郎著
- 二十歳の精神(こころ)に 赤羽潔著
- 看護教育の病理 田中マキ子著
- 実践に活かす褥瘡ケアガイドブック 田中マキ子編著
- 老年看護学 田中マキ子編著  
(他共著1点)
- 生化学 長坂祐二,中村和之,久木野憲編
- 感染と生体防御 森口覚,酒井徹,山本茂編著
- 高齢社会の地域政策 堀内隆治,小川全夫編著
- グローバリゼーションと国際社会福祉 仲村優一,慎變重,萩原康生編著
- Open Office.orgで学ぶコンピュータリテラシ - 永崎研宣編著,吉永敦征,畔津忠博著

## OPACの所在情報について

図書館の各端末に所在情報メモがついたことに皆さんはお気づきですか。今回はOPACで検索した資料の所在情報について紹介します。

### < 図書編 >

OPACの検索画面でフリーワードの項目に「遠藤周作」と入力し、検索すると38件ヒットしました。その中の18番目の図書をクリックし、詳細情報を確認してみましょう。



昭和文学全集の中の21巻、遠藤周作他3名の著書が収録されている図書です。所蔵情報を確認しましょう。



この図書は「開架(手にとって閲覧できる)」にあり、請求記号(背ラベル)は918.6||Sh97||21( ||は改行の意味)です。図書IDは、バーコード番号です。資料を探すときは、貸出状況を確認し、所在と請求記号を必ずメモしましょう。

なお、所在の内訳は  
 「開架」\* 本館1階図書と2階大型図書  
 「書庫」\* 本館の書庫と旧講堂  
 「学術雑誌室」\* 本館2階の雑誌室  
 「一般雑誌コーナー」\* 本館2階の廊下  
 「看護図書室」\* 看護西棟2階 などがあり、  
 書庫内資料の閲覧はカウンターに依頼します。

### < 雑誌編 >

雑誌の詳細情報についても確認しましょう。「食生活研究」という雑誌を検索すると、以下のとおり表示されます。



所蔵巻号をみると、最後に「+」があります。これは継続して受入中ということです。所在は「学術雑誌室」になっていますが、貸出雑誌情報をみると26巻まで「書庫」になっています。これは、今年の刊行分は「学術雑誌室」にあるが、バックナンバーはすべて「書庫」に保管されているということです。

また製本雑誌情報は、バーコード貼付の製本雑誌が表示されます。これ以外の、バックナンバーの貸出については、青い2枚複写の「資料貸出カード」への記入が必要となります。

以上、簡単に説明しましたが、どうぞ皆さんも実際に資料を探してみてください。ただし、閲覧した資料は必ず元の位置に戻さないと、いくらOPACの達人となっても探し物は見つかりません。次に使う人のことを考えて資料を閲覧してください。よろしくお願ひします。  
 (窪田)

編集後記...今回は訂正とお詫びです。

館報第3号、4ページ「ミニ特集 附属図書館利用者アンケート」開館日・開館時間・特別利用の中の、「学部別不満度と特別利用の利用率」表中の数値が間違っていました。

国際文化学部の特別利用の利用率は23%ではなく、正しくは26%です。お詫びして訂正します。  
 (町田)

編集・発行/山口県立大学附属図書館

〒753-8502 山口市桜畠3-2-1

TEL.(083)928-0522 FAX.(083)928-0279

E-mail.lib@sakura3.yamaguchi-pu.ac.jp